

出土品紹介① ～国司のたからもの～



りよくゆうかちようもんすかしほりこうろ
▲緑釉花蝶文透彫香炉（合川町ギャクシ出土）
現在の愛知県で、緑色の釉薬をかけて焼かれたものです。蓋の天井部には花や蝶の文様を描き、隙間の透かしからは、お香の煙が漂っていました。



りよくゆうかもんりようさら
▲緑釉花文稜皿（合川町柿ノ内出土）
香炉と同じく、現在の愛知県で焼かれたものです。皿の一部しか発見されていませんが、花の文様が描かれています。ほとんど同じものが三重県の斎宮跡でも発見されていて、貴重なものであったようです。



りよくゆうとうきわん
▲緑釉陶器碗（合川町井葉出土）
現在の京都府で焼かれたものです。全体の半分以上が残っており、緑色の釉薬も非常に良い状態で出土しました。



かいゆうとうきさら
▲灰釉陶器皿（合川町井葉出土）
現在の愛知県で生産された、透明の釉薬をかけて焼いた器です。九州での出土例は稀少です。



はくじとりがた
▲白磁鳥形つまみ（東合川町朝妻出土）
中国で生産されたもので、蓋や壺などの「つまみ部分」と考えられます。目やくちばしが良く表現されています。

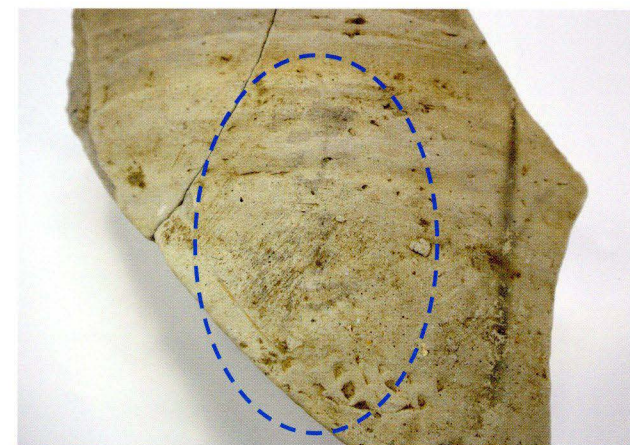


えっしゅうようけいせいじさら
▲越州窯系青磁皿（合川町ギャクシ出土）
中国の浙江省付近で生産されたものです。当時の日本にはない磁器の皿で、器のふちには花卉を形どった表現が見られます。

出土品紹介② ～硯と文字の世界～



えんめんけん
▲円面硯（合川町北出土）
須恵器と呼ばれる硬質の土器で、国府の役人が使用していたと考えられます。現在の硯と異なり、円形なのが特徴です。



ぼくしょどき
▲墨書土器「守館」（合川町井葉出土）
須恵器の碗に、役人の長官を示す守の住まいを意味する「守館」と墨で書かれています。出土地一帯に、国司の屋敷が広がっていたものと想像できます。



すけ
▲墨書土器「介」（合川町柿ノ内出土）
京都府で生産された須恵器の底に、国司の次官である「介」の文字が墨で記されています。



▲墨書土器「祭」（合川町風祭出土）
須恵器の坏と呼ばれる食器の底部分に、「祭」の文字が記されています。



▲墨書土器「長矢」（合川町柿ノ内出土）
土師器の碗の側面に、「長矢」と墨で記されています。意味はよく分かりません。



▲墨書土器「賀」（合川町ギャクシ出土）
土師器と呼ばれる赤っぽい軟質の土器の底部分に、「賀」の文字が墨で書かれています。意味はよく分かりませんが、同じものが14点出土しています。